

弓削通信

2012.7.15 №26 (通巻 153) Since 1991.6
発行者 平山和昭 電&Fax 0897-77-3072
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町弓削土生 318-2
メール yugureru3@ray.ocn.ne.jp
フェイスブック <http://www.facebook.com/kazuaki.hirayama>
ブログ http://blogs.yahoo.co.jp/yugureru_fish

平成24年3月9日、町民は3度目にあたる航路存続に向け取り組むよう求める署名嘆願書を町長に提出。その結果、平成24年4月10日、陳情署名の代表者および航路業者、議会代表者との協議(マスコミの同席取材拒否)が陳情者の斡旋でもされた。しかしその席上、「議会や町民が」上島町長は業者と話し合いをしないと批判するから(この度)会っているだけだ」「相談がある方が連絡して来るのが筋だ」「勝手に止めたり走らせたりしている」「(会社の都合が)上島町に何の関係があるのか」「1800名の陳情署名とは言うが上島町の人口は7500人だ」など、とても運航継続をして欲しいと考えているとは思えぬ町長の態度にクルージング社は航路廃止を決意したのである。

責任転嫁ではすまない
今年6月1日より尾道弓削全線が廃止された。このいきさつに關し弓削通信フェニックス5月号に一連の顛末を書き町民のみなさんには読んでいた
だいた。
さて、その後開催された6月定例議会での町長の行政報告では、行政側としては支援に取り組もうと協議を始めたにもかかわらず、瀬戸内クルージング社が一方的に撤退を決めたという趣旨の弁明があつた。あたかも航路が廃止されたのは行政側（町長）には一片の責任もないと言ったがだ。
しかし事実は以下の通りだ。



★5月から始まったやよみ亭「出よう会」。お年寄りの交流復活活動。お茶したりおしゃべりしたり歌ったり。7月はミニ七夕かざりを作った。別に土生集会所「出よう会」もあります。

島の生命線・航路問題 尾道航路廃止と今治航路赤字補填に思う

尾道航路廃止と今治航路赤字補填に思う

公共交通の確保は住民にとって生活の安全保障。行政にとっては義務だ。特に我が町では、救急搬送は尾道市の病院が圧倒的に多いのが現実。その現実と尾道航路のことを大事に思い、存続を願う気があるなら、まずはその意志表示があつてこそ協

救急車の向かう先は尾道だ
採算が合わないから撤退した
いのが業者。だからこそ我々は
昨年、手を尽くし閉止されてい
た弓削・生名間を復活させ、と
もかくも存続の道筋をつけた。

**公共交通の
ビジョン
議会は役割を果たせ**

か。そこで初めて首長の力量が問われる。合併前の弓削町時代には、当時の木下弓削町長や龜田尾道市長の努力で本・四架橋で喪われた弓削・尾道航路を復活誘致し、住民の安全確保に取り組んだ。以後10年をこえ特に問題もなく、それなりの努力を重ねてきした業者を、どういうわけか毛嫌いし撤退に追いやつたのが合併

議というものが成り立とうといふものだ。

先人の功績を無駄にした

尾道航路は、弓削島や佐島、魚島や生名島に住む交通弱者のみならず、外から人を呼ぶにも最重要なものひとつ。採算のとれぬ事態となつても簡単には切り捨てられない問題だ。そうなつたときどう取り組んでゆく

金はれ定　いで尾で　船赤由セ

船」から求められている。ちなみに同じ3セクの構成員である今治市は984万円余、尾道市は235万円余の負担額である。請求金額が明示されているからと、町は応じる構えだ。この赤字補填の根拠となる協定書が平成21年3月に締結されていてもかかわらず、締結者は理事者の専権であるとして、今回の補填請求が出てくるまで

後の現町長である皮肉。
航路維持に関しては、自治体としての明確で強い意志がなければ叶うまい。つまり、撤退追いやつたのも自治体の意志か新たな航路問題も出現！

民間業者の今治航路には巨額の支援を、それも事業内容を精査をしているとも思えず丸呑みの態で感じようとする。眞面目に努力してきた者が冷や飯だ。

その存在が議会には知らされていなかつた。そのことを問題相手とする議員はたつた1名。「問題はない」とする町長答弁を、議会として問題視する様子もない。わが町にとつてはこの金額は次の事業年度（平成25年1月1日～平成25年12月31日）からも、増えることはあつても減らないかもしれない。そういう発言ある折にな島田が吉ばし

きどぐち 二十六

青木喜代子

夏祭りがやつてきた。あれは何年前の祭りの夜だつたか。「こんばんは！ ビールください」と若者四人が店に入つてきた。

「いらつしやい」「約束通り来ました！」

「あれ？ 二十歳になつたらおいでと言つたの忘れた？」

彼らの話をまとめるところだ。

四人が高二のときビールを買にきたら、「未成年には売られん！ 二十歳になつたら来い！」と私が言つたらしい。そして、「このビール一本で取り返しのつかん事が起きたらご両親に申訳ない」とも言つたらしい。

彼らの話を聞いていたらおつかいオバサンはすかりうれしくなり、四人にビールをごそそうした。

我が家家の前を部活帰りの中高生がよく通る。パンの袋やらを捨てる子がいるが、注意するほとんどの子がブレーキをかけて捨う。中には「ふん！くそバア」と、猛ダッシュする子もある。悲しいかな一〇〇%女子社会人として頑張っている頃。悪さしている子どもに一声かけてあげられる大人になつてほしいな。とこう書いているそばで中年オヤジが「どうかね」と言つているが、どうあれ絶滅危惧種おせつかいオバサンは、この夏も健在である。

